

8. 臓器提供施設と検査室の関わりについて

8-3) 脳波検査室が準備する資料について、これだけは常備しよう

(1) 【法的脳死判定マニュアル 2011】 平成 23 年 3 月 1 日 発行版 (非売品) 37 ページ

(1999 年発行の『法的脳死判定マニュアル』と同名であるので区別のために 2011 を付加しました)

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業、「臓器提供施設における院内体制整備に関する研究」、脳死判定基準のマニュアル化に関する研究班

法的脳死判定のすべての基準となる資料です。これ以前に出されたガイドラインや省令などを取り込んでいます(小児脳死判定基準 2010 も含む)ので必ず常備し熟読しておいてください。臓器移植ネットワークから入手することができますので(PDF 版)、ダウンロードして印刷製本して常備しておいてください。この Q&A 集には脳波に関連する部分のみはテキスト文として掲載しています。

(2) 【臓器提供施設マニュアル】 平成 23 年 3 月 31 日 発行 (非売品) 102 ページ

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金厚生労働科学特別研究事業、「臓器提供施設における院内体制整備に関する研究」、臓器提供施設のマニュアル化に関する研究班

臓器提供施設が法的脳死判定を行う際に、その施設全体の流れの例やどのタイミングで関連団体に連絡するか、コーディネーターの役割、院内関連部署の役割、適用保険などが詳細に記述されています。技師としても所属する検査部門だけでなく全体の流れを把握しておかないと検査体制や検査の準備の予想ができないので必読しておきましょう。これも臓器移植ネットワークから入手することができますので、ダウンロードして印刷製本して常備しておいてください。

(3) 【脳死臓器移植に関する検証資料フォーマット】 平成 23 年 5 月改訂 22 ページ

本集の[7. 検証会議について]で抜粋し説明していますのでそちらを参照してください。

ECI 委員会註)

検証資料フォーマットは公表されてませんが、上記の見本は臓器移植ネットワークのご厚意により臓器提供施設であれば入手する許可を得ましたので今回は例として出しました。必要な方は、

1) 日本神経生理検査研究会 会員の有無

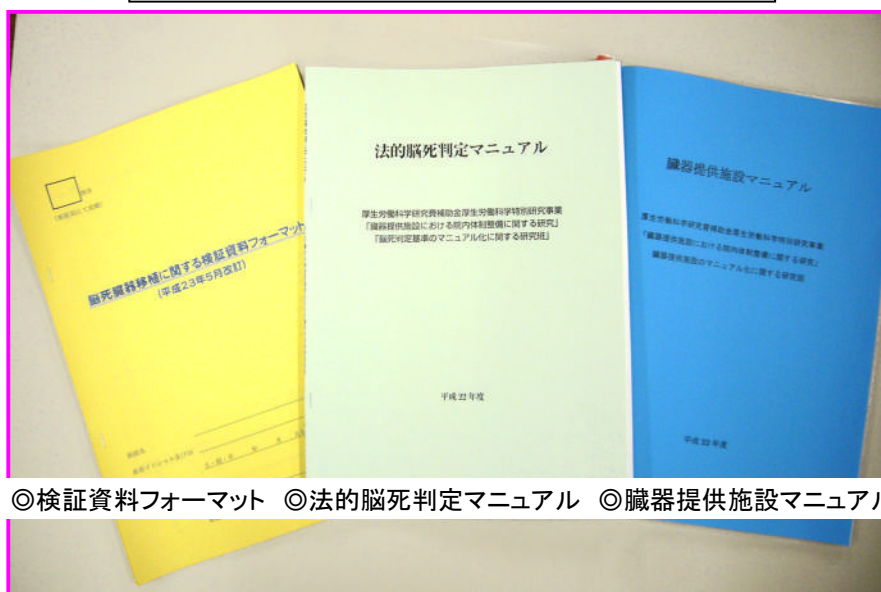
2) 施設名 所属部署

3) 氏名

4) Email アドレス

を明記され、eci2010@googlegroups.com までお問い合わせメールを送って下さい。

重要な3つの資料



(ご注意: 写真の資料の表紙カラーは、PDF 版の印刷時に任意に選択したものであり、実物がこのような色合いの表紙になっている訳ではありません)

(4) 【法的脳死判定における脳波測定時のアーチファクトの原因と対策】

旧厚生省厚生科学研究費特別研究事業「脳死判定手順に関する研究班」の平成12年度報告書として平成13年3月に臓器提供施設に配布されました。

脳死判定脳波検査で克服しなければならないアーチファクト対策について述べています。

(5) 【臨床検査技師のための脳死判定検査ハンドブック】2000年 日臨技発行図書 (¥2000)

脳死判定脳波検査および検体検査の実践的な技術指針をまとめています。法的脳死判定マニュアル2010には未対応ですが、基本技術には大きな変更はありませんので良い参考書になるでしょう。

(6) 【法的脳死判定脳波検査室用チェックリスト】 自作する

本書のチェックリスト例を参考にして、使いやすい自施設用のチェックリストを作成しておきましょう。このリストを使ってECI記録を確実に実行し、チェックした事項や内容に基づいて、公式書類への転記作業を行うことになります。